

トビウオ通信 (R4 第7号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和4年度マアジ新規加入量調査結果速報》

マアジ0歳魚(令和4年(2022年)生まれ)の新規加入量調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は、その年に生まれたマアジの加入状況を早期に把握するために、平成15年以降毎年実施しているもので、今年で20年目となります。

参画機関は国立研究開発法人水産研究・教育機構(水産資源研究所)、鳥取県水産試験場、山口県水産研究センター及び島根県水産技術センターです。

結果の概要

- マアジ0歳魚は、適水温帯(16~20℃)が広がる島根半島から鳥取県の沿岸寄り及び隠岐諸島周辺の海域で多く採集されました。
- 調査結果を基に計算した今年のマアジ0歳魚の加入量指数(来遊量の多さ)は、平成15年を1.00とすると1.22となり、昨年(0.90)より高くなりました。
- 今年のマアジ0歳魚の来遊量は、前年を上回ると推測されます。

マアジ0歳魚の採集結果と分布状況

令和4年(2022年)5月16日から6月10日にかけて長崎県五島列島沖から鳥取県西部の海域における合計95地点でマアジ0歳魚を対象とした中層トロール網を用いた採取調査を実施しました。その結果、尾叉長2~4cmサイズを主体に合計13,270尾(1曳網当たりの平均採集尾数:140尾)が採集されました(図1)。

採集されたマアジ0歳魚は、適水温と考えられる16~20°C（水深50m）の水温帯に多く分布していました。分布範囲は例年同様、五島列島から隠岐諸島の広範囲に及び、1曳網当たりの採集尾数（CPUE）は島根半島から鳥取県の沿岸寄り及び隠岐諸島周辺に多く、島根県西部においてはCPUEが低くなりました。また、山口県から対馬にかけては、再びCPUEが高くなりました。

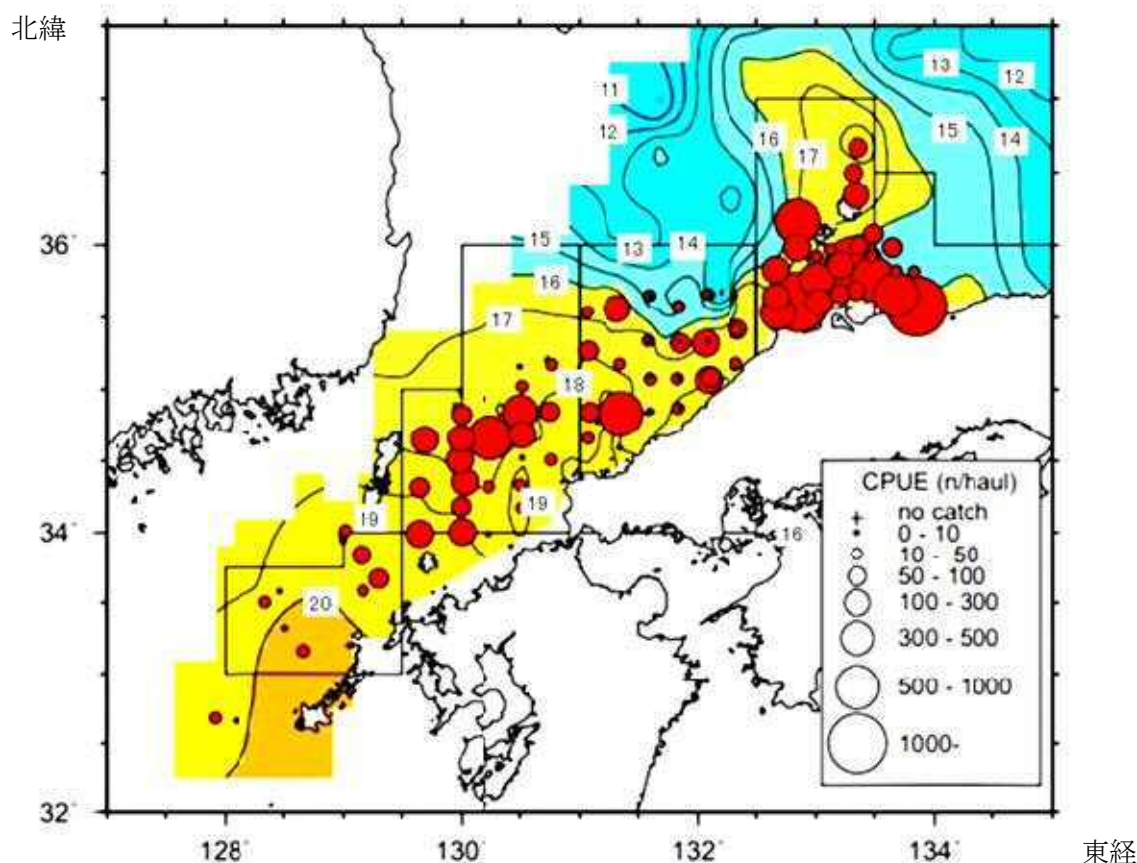


図1 マアジ新規加入量調査における令和4年のマアジ0歳魚の採集結果
 円の大きさはマアジの採集尾数の多さを表し、+は採集されなかった点を表す。水深50mの水温分布については、青色が16度以下、黄色が16~20度を表し、図中の数字は水温を示す。
 （資料：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所作成）

マアジ0歳魚の加入量と今後の漁況

マアジ0歳魚の分布量と調査海域の水深50mの水温分布をもとにして算定したマアジ0歳魚の加入量指数（来遊量の多さ）は、平成15年を1.00とすると、今年は1.22となり、昨年（0.9）を上回りました（図2）。このことから、今年

のマアジ0歳魚の来遊量は前年を上回ると推測されます。

マアジは小型の0歳魚を漁獲するよりも、1年後に成長してから漁獲したほうが単価は高く、資源を有効に活用できます。単価の低い小型魚を多く獲り過ぎてしまうと、将来の単価の高い大型魚の漁獲量が減るだけでなく、産卵親魚の減少にもつながるため、過度な漁獲圧力がかからないよう適切な管理を行っていくことが大切です。

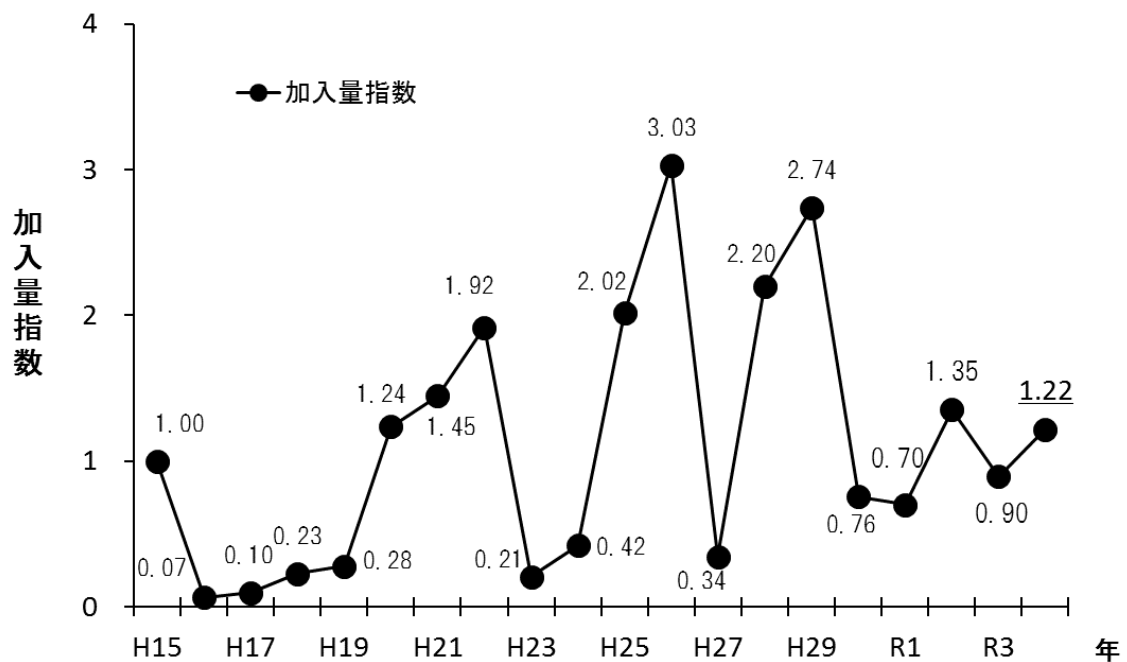


図2 マアジ0歳魚の加入量指数の動向